

# 「かるた藤沢百趣」改訂版 2022年7月

1 青鷺の首 つと伸びる先 親水公園 鮎光る

引地川親水公園は、国指定の、ふるさとの川モデル事業として、桜並木や花壇、遊具、バードウォッチングなどを楽しむことができる。

2 秋の夜空に 江の島花火 大輪の菊 仰ぎ見る

江の島の花火は、夏は短く、大会は秋に行われるので、澄んだ夜空に大輪の菊が咲いたように見事である。

3 鱒か真鯛か 朝市まだか 片瀬漁港に 人の列

漁港の朝市は大人気で早くから行列。今日はどんな魚が網に掛かったか、漁船の荷捌きが待ち遠しい。

4 あした浜辺と 流れる曲が 辻堂駅の 発メロに

浜辺の歌の作詩者は辻堂に住んでいた。辻堂駅の開設百周年を記念して、ホームに流れるメロディーに採用された。

5 荒波洗う 岩屋の奥で 仕掛けの竜の 目が光る

隆起と荒波の浸食でできた江の島の洞窟内に、観光用に竜の仕掛けがあり、目を光らせては咆哮する。

6 荒波めがけ わが身を投げた 白菊の悲話 稚児ヶ淵

学問にいそしんでいた稚児白菊が建長寺の僧に思いを寄せられ、悩みの果てに江の島で入水、僧も後を追ったという。

7 鯛の群舞 クラゲのパレエ 舞台は 江ノ島水族館

正式名は新江ノ島水族館。鯛の大群が目の前に迫る大水槽や、優美なクラゲの姿のライトアップの他に、イルカの繁殖も有名。

8 団扇太鼓や 万灯の列 夜店ひしめく 法難会

日蓮上人が鎌倉幕府による処刑を免れた九月の法難の日には、各地から片瀬の龍口寺に信者が集まり、盛大な法会となる。

9 宇都母知神社に 氏子が集い 深まる秋の 収穫祭

延喜式内の、御所見地区で最も古いお宮で、打戻という地名は、この神社に由来する。十一月末に、うつもちの里収穫祭がある。

10 エゴの温水 子供の声も プールに満ちる 石名坂

石名坂ゴミ焼却場の熱を利用した温水プールは、四季を通じて大人、子供を問わず市民に大人気。

11 江ノ島エスカ― 帰りはごわい 下り階段 二五四

エスカ―は昇りだけだから、帰りは階段を下ろすことになる。景色に見とれていると、足を踏み外すことになるので慎重に。

12 江の島沖の 波きらめいて 初日とともに 声上がる

元旦の早朝、浜で待ち受ける人々は、初日で波がきらめき始めると、感嘆の声が出る。光を浴びて浮かび上がる富士を背に。

13 江の島参道 たこ煎餅は トンビも好物 ご用心

江島神社の参道である坂道は、みやげ物店と食堂が軒を接して立ち並び。丸たこ煎餅や江の島タコ煎餅はなかなかの人気。

14 江島神社は お宮が三つ 奥津 中津に 辺津の宮

江島神社とは、島内の三つのお宮の総称で、それぞれ異なる三柱の海の女神を祀っている。

15 江の島茶屋を 訪ねて行けば 欠伸の猫が お出迎え

穏やかな気候に誘われ島内の階段を上って行けば、猫もつぼ焼きの匂いをよそに、茶店の前でのんびり大あくび。

16 江の島 西富 川名の囃子 どれも無形の 文化財

江の島八坂神社の江の島囃子は県指定、西富諏訪神社の西富囃子と川名御霊神社の川名屋台囃子は市指定の、民俗文化財。

17 江の島弁天 七福神の 藤沢 鎌倉 掛け持ちで

藤沢七福神と鎌倉江の島七福神の二つのグループに、江島神社の美人の弁天様は、両方顔を出すモテモテぶりだ。

18 江ノ電沿いの 季節の花は 鉄道マニアの アイドルに

紫陽花、ポピー、ひまわり、コスモスなど、つぎつぎ線路際に咲く風景で、電車ののかな走りも、ほほえましく引き立つ。

19 お伊勢参りは なかなか行けぬ せめて花見を 伊勢山で

旧藤沢宿の外れにある伊勢山は、お伊勢参りに行けない人々を癒した時代の名残で、桜満開の時は、花見の宴が盛んだ。

20 おいで藤沢 行こうよ松本 海山結ぶ 姉妹都市

松本から学童が海水浴に、藤沢からは上高地ツアー、災害時には相互支援も行うなど、両市は友好かつ有効な姉妹都市である。

21 お江戸日本橋 七つ立ち 藤沢宿に そら急げ

江戸から藤沢へは50キロメートル強。日本橋を早朝に立っても、よほど急がないと、その日のうちに着くのは容易ではなかっただろう。

22 大庭城下は 昔は沼地 名残とどめる 舟地蔵

大庭城攻めには、沼地をどう克服するか、その秘密を教えた老婆の悲話を物語るかに、舟地蔵は静かに車の流れを見ている。

23 大山道から 江の島詣で 橋の袂で 栄螺食う

大山参詣を終れば次は江の島詣で。サザエのつぼ焼きの匂いがたまらない。本当は神社に詣でた後で食べるべきだろう…が？

24 小栗判官 照手姫との 伝説残る 長生院

遊行寺の塔頭、長生院は、有名な小栗判官の妻照手姫が晩年を送ったとか。説教節から出て、浄瑠璃や歌舞伎にもなった伝説だ。

25 瀬郷発の 藤沢名産 かわうそサブレ ほくは好き

海老名市との境の一部、目久尻川周辺にはカワウソがいて、これが瀬郷の語源。福祉施設で作るサブレが、藤沢名産に数えられている。

26 お年寄りにも 浮き立つ春は 長久保公園 植木市

引地川沿いの都市緑化植物園。公園内の溪流やバラ園、ハーブ園なども楽しいが、春と秋の、草花や木の苗の市も人気がある。

27 踊り念仏 遊行の盆の 遊行ばやし の 夏の宵

一遍上人が諸国を遊行して踊念仏を催し、仏の道を広めたのに因んで、いま、盆踊りとして、多くの市民の心を癒している。

28 街道沿いの プラネタリウム 北の拠点 は 湘南台

湘南台は若い街。文化センター、プラネタリウムなどに加え、鉄道の乗り入れや近隣の大学の進出などで活気を帯びている。

29 輝く太陽 パネルにそそぎ スマートタウンが フル稼働

藤沢・辻堂間の線路沿い、工場跡地に、エコエネルギーの大規模タウンが出現。新時代の住宅で町並みが一変した。

30 家族で遊ぶ 少年の森 キャンプ・虫捕り アスレチック

藤沢市少年の森は緑あふれる施設内で、アスレチックコースや、キャンプ場など自然を体感して、家族や集団で野外活動を味わえる。

31 片瀬山から 丹沢 富士や 箱根伊豆まで 一望に

丹沢を見て左に目を移せば、相模湾を隔てて伊豆大島までの展望が楽しめる。夕焼けをバックに富士山のシルエットは抜群。

32 片瀬山越え 大船めざす 懸垂式の モノレール

龍口寺の横から目白山、片瀬山、鎌倉山を越えて走るモノレールは、沿線の住民や、工場勤務の人にとって重要な通勤路線。

33 河童伝説 目久尻川は 一級河川だ 小さいが

藤沢北西部を流れる目久尻川には、田畑を荒らす河童を退治したとの伝説がある。相模川の支流で小さいながら一級河川である。

34 鎌倉 室町 戦国は夢 大庭城址は いま桜

数々のいくさを経た城址は、いまは遺跡のみ。その代わりに、桜や藤などの、平和のシンボルともいえる花見でにぎわう。

35 斬られて哀れ 元使の塚に 枝垂れ梅咲く 常立寺

文永の役後、元からの降伏勧告を北条時宗は撥ねつけ、元の使いは龍ノ口の処刑場で斬られた。常立寺には彼らの墓がある。

36 鵜沼発祥 ビーチバレーの 焼けた素肌に 汗と砂

どういうわけか、ビーチバレーは真夏の海岸を連想させる。砂も焼ければ肌も焼ける。若者よ、重い砂に負けず頑張れ。

37 鵜沼伏見の 初詣には 御神酒待つ人 通りまで

鵜沼伏見稲荷では三が日、かわらけでお神酒が参拝客に振舞われる。縁起物の御神酒に、拝殿から表の道まで列が続く。

38 櫛の並木 四季とりどりに ライフタウンは 丘の街

黒川紀章が設計したライフタウンの町並みは、街路樹のケヤキ並木が、緩やかなカーブと傾斜に沿って、新緑も紅葉も美しい。

39 恋人の丘 龍恋の鐘 江の島山頂 若い夢

江の島の頂上付近、林を縫って太平洋を望む散策コースが奥津宮近くにある。若い二人が、遠く太平洋を見ながら語り合う。

40 工業団地は 言葉さまざま 保育園まで 国際化

藤沢市北部の工業団地には、外国出身の従業員が多くいて、その家族の居住者も住んでいるから、当然国際色豊かになる。

41 皇大神宮 九台山車と 湯華神樂の 例大祭

那須与一や神武天皇など、市民祭りにも姿を見せる町内会ごと  
の人形山車や、湯華神樂が烏森皇大神宮の例大祭を彩る。

42 ここ打戻 稲穂も架けて 小出川には 彼岸花

藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町の境、小出川は秋彼岸には、曼殊沙華が  
咲いて赤いベルトとなり、刈り取った稲がはぎに掛けられている。

43 小ぶりで黒い 鵜沼かぼちゃ 味もしつかり お墨付き

伝統的ご当地野菜の鵜沼かぼちゃは、西洋カボチャと異なり、水気  
は少なく、外見はゴツゴツした感じだが、愛好者は多い。

44 サーファー族は 崩れる波に ヨットの白帆は 沖滑る

海岸近くの崩れる波頭を滑るのはサーフィン。ヨットの白帆が沖の波  
を優雅に滑るのは好対照。

45 再開発の辻堂駅は テラスモールが シンボルに

辻堂駅北口前の再開発で目玉となったテラスモール。付近には市の  
浮世絵美術館など新しい施設もでき、駅の乗降客も大幅増加。

46 境川には 柏尾の川が 一緒になって 片瀬川

北から流れてきた境川と東から来た柏尾川が川名で合流し、片瀬  
川として弁天橋の近くで相模湾に注ぐ。河口には片瀬漁港がある。

47 シスター達の スカート揺れて 坂道登る 修道院

聖園(みその)の原点ともいえる本藤沢の修道院。坂上にあり、修道  
女たちも上るのは大変だ。

48 市民オペラや 藤沢市展 市民の文化 華と咲く

藤沢市民の文化活動は盛んだ。市民オペラは毎年大人気だし、藤  
沢市展も、写真、華道、美術、書道など市民が積極的に参加する。

49 市民まつりの 小学生は プラスバンドで 誇らしげ

藤沢市民まつりは、いろいろな団体や地域が参加して、藤沢駅を  
中心に大賑わい。小学生のプラスバンドも、脚光を浴びる。

50 ジャンポプールに 芝生の広場 海浜公園 家族連れ

辻堂海浜公園は、海水浴からジャンポプール、そのほかサイクリン  
グ場などもあり、家族連れで飽きることなく楽しめる。

51 宿場の 栄枯盛衰見つめ 古木そびえる 常光寺

旧藤沢宿の真ん中あたり、一步入ったところに古刹の常光寺がある。こんもりと繁っている古木は長い歴史の証人か。

52 湘南海岸 囁耳の碑に 中国国歌の 曲刻む

この海岸で水泳中に世を去った囁耳。作曲した中国国歌が湘南海岸公園の記念碑に刻まれ、生地の昆明市は友好都市になった。

53 湘南台の ツインのバスは 学生たちの 夢を乗せ

湘南台から慶応SFCへ、神奈川中央交通の赤い連接バスが走っている。通学のラッシュ時には、学生たちで賑やかだ。

54 湘南なぎさ スケートパーク 育てスケボー メダリスト

鵜沼海浜公園スケートパークは、スケートボードの初心者からプロまで子供も大人も楽しめる一方、五輪のメダリストも育てている。

55 湘南藤沢 市民マラソン 冬の海風 頬に受け

藤沢の市民マラソンは地域マラソンの草分け的存在。スタート直後やゴール前に弁天橋を渡るときは、風の冷たさに息も詰まるようだ。

56 除夜の鐘鳴り 詣でる男女の 途切れる間なき 辻御堂

辻堂元町二丁目の宝珠寺の不動堂が、もと保田の辻にあり、辻堂の語源と言われる。あるいは宝泉寺が辻にあったから、とも。

57 新宿までの 便利を競う 小田急線と JR

藤沢・新宿間の所要時間は、JR湘南新宿ラインが小田急線の快速急行より若干短い、料金は小田急線に凱歌があがる。

58 深夜の小田急 江ノ島駅で 竜宮城の 夢が醒め

江ノ島駅は竜宮城を思わせる作りだが、終電で乗り過すと、この駅で目覚めても、帰る電車はなく、地獄の門に見える。

59 杉山検校 墓のかたわら 点字冷たし 梅二輪

江の島島内に、江戸初期の生まれで、新しい鍼治療による世界初の視覚障害者教育施設を開設した、杉山検校の墓がある。

60 相撲の巡業 藤沢場所 幟はためく 秋葉台

毎年四月の恒例となった、大相撲の巡業藤沢場所は、秋葉台の体育館で行われ、力士の幟が華やかに並べられる。

61 成人祝せいじんいわう 寒中神輿かんちゅうみこし 波を蹴立なみてる 東浜ひがしはま

一月の第三日曜日に、片瀬東浜で、藤沢・鎌倉合同の寒中神輿  
錬成大会が行われる。裸で担ぐ人より、見物人の方が寒い。

62 早雲開基そううんかいきの 天嶽院てんがくいんに 楓かえの並木なみき 六地藏ろくじぞう

渡内にある天嶽院は、北条早雲が古寺を改修して開基した曹  
洞宗の格式高い名刹。江戸時代の徳川家からも厚遇された。

63 体育センターたいいく 緑の中のみどり グリーンハウスに 歴史れきしを見る

善行の県立体育センターの一角に、かつての藤沢カントリー倶楽  
部というゴルフ場のクラブハウスであった由緒ある建物がある。

64 小さな江ちいの島しま 大きなユース オリンピックが 二度にども来たき

一九六四と二〇二〇(実施は二〇二一)、二度の東京オリンピッ  
クで二度とも、セーリング競技の会場に江の島が選ばれた。

65 力ちから合わせたあ ロープさかの先さかに 魚さかな飛び跳はね 地引網じびきあみ

皆で引つ張るロープの先に、次第に網が見えてくる。ときどき飛び  
跳ねる魚が見え、トンビやカモメも低空で狙っている。

66 東西南北とうざいなんぼく 道祖神どうそじんあり 辻堂四町つじどうよちようを 護まもります

辻堂は、もと四つの地域からなり、それぞれの地域の守りとして、  
道祖神が鎮座ましましている。

67 砥上ヶ原とがみがはらは 藤沢南部ふじさわなんぶ 八松ヶ原やまつがはらは いま辻堂つじどう

鎌倉時代以前、藤沢南部の引地川の東は砥上ヶ原、引地川西の  
辻堂方面は八松ヶ原(やまつがはら、とも)と呼ばれていた。

68 梨園なしえん続く 高倉たかくら・長後ちやうご 昔むかしは高座こうざの 中心地ちゆうしんち

高座はタカクラとも読み、長後は古くは長郷と書いて、いずれも  
高座郡(郷)ゆかりの地名だが、最近は果樹園地帯となっている。

69 生なましらすやら 釜揚げかまあげしらす たたみたみいわしは ちよいあぶ炙あぶる

湘南名物しらすは、生、釜揚げ、上干し、ちりめん、などの食べ方  
がある。たたみいわしは美味だが、炙り加減に注意。

70 奈良ならの時代じだいに 片瀬かたせに鎮座ちんざ 上下揃かみしもそろった 諏訪すわ神社じんじや

片瀬の諏訪神社は奈良時代初期の養老年間に、初めて諏訪以外  
の地に勧請され、上諏訪・下諏訪の両社が揃う貴重なお宮。

71 日蓮にちれんさんの 法難ほうなんし偲おぼび 団扇うちわ太鼓だいこの 龍口りゆうこう寺じ

龍口寺の法難会といえは、信徒の団扇太鼓、万灯の列のほか、軒を連ねる夜店や、撒かれるぼたもち狙いの参詣客で賑わう。

72 日本にほんの 三大さんだい弁財べんさい天てんは 江島えのしま 宮島みやじま 竹生ちくぶ島しま

九州の宗像神社から伝わった海の女神信仰は、その後、弁天信仰と重なり、水運や財運、技芸に縁の深い神社となった。

73 八部はつべ公園こうえん プールや野球やきゅう 市民しみんの健康増進けんこうぞうしんに

通称鵜沼運動公園は、藤沢市南部のスポーツの拠点で、プールも多種類あるが、テニスコートや、遊具広場、SLの展示もある。

74 花はなも野菜やさいも 畜産物ちくさんぶつも わいわい市いちは 四季しきゆた豊たか

国道467号線沿いの亀井野にJAさがみのわいわい市藤沢店があり、四季を通して地元じよんの農畜産物を彩り豊かに直売している。

75 昼間ひるまは残暑ざんしょ 遊行寺境内ゆぎょうじけいだい 暮くれて幽玄ゆうげん 薪能たきぎのう

遊行寺の薪能は、例年、八月下旬に境内で行われる。昼間の暑さを忘れ、かがり火の中で見る能舞台は、風情も格別。

76 藤沢ふじさわ駅から 清浄光寺しよじよこうじ 遊行ゆぎ通つうりと 名なが残のこる

時宗総本山の、清浄光寺の通称が遊行寺で、駅から遊行寺に向かう門前街は、遊行通り商店街と名付けられている。

77 藤沢ふじさわ御殿ごてんの 名残なごりは今いまも 陣屋じんや小路こうじや 御殿橋ごてんばし

藤沢橋と市民病院の間に、江戸初期に、徳川將軍家の宿泊のため約六十年間、御殿や、管理のための代官陣屋があった。

78 藤沢ふじさわ農家のうかの 夢ゆめみのらせて 大粒おおつぶぶどうの 藤稔ふじみのり

今では山梨県あたりでも栽培を始めた藤稔は、その名のとおり藤沢で開発された。大きくて味のよい人気高級品種だ。

79 藤沢ふじさわ橋はしの すぐ近くちかには 遊行寺ゆぎょうじ門前もんぜん 赤い橋あか

藤沢橋のすぐ近く、遊行寺の山門に至る道が境川を渡るのは、赤い欄干の遊行寺橋で、かつての東海道の橋である。

80 富士ふじも夕日ゆうひも ひとときわ映はえる 弁天橋べんてんばしから 江えの島しまへ

弁天橋からの眺めは、東に鎌倉・三浦半島、西には丹沢、富士箱根伊豆と、海を間に挟んで朝日・夕日ともにすばらしい。

81 藤や古民家 新林には 里の画題が いつもある

新林公園は、下の広場は、梅・桜・藤の花や池、田んぼ、古民家の里景色で写生には好適。裏山も整備された道で一周できる

82 冬の相模は 波穏やかに 大島の先 利島見え

夏とは反対に、相模湾の冬の風は、陸側から太平洋側に吹くので、波を静め、海底の砂も巻き上げず、穏やかな遠望となる。

83 母校の誇り たすきを胸に 駆ける選手に 春明ける

箱根駅伝の魅力は、選手たちが、それぞれの大学のたすきを必死になつてゴールに向けて手渡して行く新春風景にある。

84 ボラも遊べば カヌーも遊ぶ 犬も大好き 引地川

引地川や境川の河口近くではボラがたくさんいて、よく跳ねる。犬連れで川べりの散歩をすると、カヌーの練習風景も見られる。

85 緑豊かな善行の道 往きも帰りも 坂に泣く

善行の町は、確かに坂が多い。緑の自然が多いのは喜ばしいが、出かけるときの往復も、特に夏や雨風の強いときはたいへん。

86 南の寺の 隣りはお諏訪 人形山車が トントコトン

辻堂の宝泉寺と諏訪神社は、鎌倉時代からのお隣り同士。諏訪神社の例大祭には、辻堂四町の人形山車が集まる。

87 みやげ物屋と マンション街が 洲鼻通りで せめぎ合う

江ノ電江ノ島駅から弁天橋に至る洲鼻通りは、以前はみやげ物店が軒をつらねていたが、今はマンションと混在している。

88 武蔵相模の 境の川と 鵜沼挟む 引地川

町田市北部から昔の国境を流れるため、そう呼ばれる境川と、大和市から流れる引地川とが、鵜沼を挟んで相模湾へ流れ込む。

89 明治の初期に 世に先駆けて 人を育てた 耕余塾

耕余塾は明治五年に初等教育の私塾として当時の羽鳥村で開塾、多くの人材を育てた。戦後の大宰相吉田茂もここで学んだ。

90 飯盛女も 一緒に眠る 藤沢宿の 永勝寺

街道が交差する藤沢宿では、昔、飯盛女と言われた遊女たちが旅人の疲れを癒した。永勝寺には彼女たちの墓もある。

91 弥次喜多通つた 藤沢宿に 江戸の面影 ちらほらと

東海道五十三次の主要な宿場として、弥次喜多も膝栗毛で通つただろうが、今日では、藤沢宿の面影はごくわずかである。

92 柳小路の 蓮咲く池に 憩う翡翠 待つカメラ

柳小路駅近くの桜小路公園、通称蓮池には、蓮の花に加えて、空飛ぶ宝石ともいわれる市の鳥カワセミも遊びに来る。

93 遊行寺坂から 浜見の先へ 駅伝がんばれ 声の波

箱根駅伝の選手の走りに連れて、沿道の声援や振られる旗も、またつぎつぎと波のように藤沢市内を移動して行く。

94 遊行寺にある 貴重な国宝 一遍さんの 絵巻物

遊行寺は念仏門の時宗の総本山であり、宝物館にある、開祖の上人に因む一遍聖絵は、藤沢市にある唯一の国宝である。

95 ヨークシャー種の 改良重ね 旨味滴る 高座豚

明治中期以降、薩摩黒豚と並び称されたが、養育期間が長くて肉量が少なく激減。しかし、近年人気が復活しつつある。

96 義経公の 御霊安かれ 白旗神社 藤薫る

源義経の首が上げ潮に乗って流れつき、白旗神社に祀られた。境内の藤棚は、義経の恨みを慰めているかのように花房を付ける。

97 ライトアップで シーキャンドルは 沖の船にも 夢を見せ

愛称シーキャンドルという名で生まれ変わった江の島展望台は、灯台でもあり、ライトアップは沖行く船からも見えるかな。

98 龍口寺前 カーブに沿って 走る江ノ電 遠慮がち

藤沢駅から出た江ノ電は、江ノ島駅まで専用線路を走ったのち、龍口寺前のカーブから路面電車となり、腰越に向かう。

99 劉生 実篤 龍之介 鷗沼ゆかりの 東家で

東家は、むかし、旅館や貸家を営み、文人や画家などが、短期、長期に滞在、あるいは居住して創作活動に励んだのである。

100 煉瓦が残る 貴重な遺構 コッキング苑は 島の上

江の島山頂にあるサムエル・コッキング苑には、シーキャンドルもあり、近代的な温室の草分けとしての遺構もある。